

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価

○健康推進課 ★上板町社会福祉協議会 ☆上板町包括支援センター △民生児童課 ▲企画防災課
 (項目に記載している記号は事業担当課です)

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)		年度	2021	2022	2023	2021・2022年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
フレイル予防 (公報掲載回数) ○	徳島県において、令和元年度から県民総ぐるみによる「フレイル予防作戦」を展開しています。本町においてもその取組を推進し、広報誌等を活用した普及啓発や研修開催等に努めていきたい。	目標	年2回	年2回	年2回	年2回	(2021年) フレイル予防として、「みんなで健康!けん玉体験」を開催。 (2022年) ・R4.10.3、10.4上板町フレイルサポーター養成講座を開催し、20名の上板町フレイルサポーターが誕生。 ・広報3月号にフレイル予防フレイルサポーター掲載	○	今後は、更なる活動の幅を広げるため、フレイルサポーターと協議しながらサポーターが自主的に活動できるようにサポートに努め連携体制を構築していく必要がある。
高齢者の健康の維持 (高齢者プール利用助成者数) ○	プールの利用人数、利用回数ともに増加傾向であり、高齢者の健康保持・増進につながっている。	目標	110人	110人	115人	115人	広報掲載のみ 利用数は年々増加傾向にあったが、2022年度は新型コロナウイルスへの警戒も緩まり、利用者が爆発的に増加した。	○	利用人数、利用回数ともに増加傾向であり、高齢者の健康保持・増進につながっている。さらに増加させるためにも事業の周知にさらに力を入れたい。
高齢者の見守り体制の推進 (見守り協定締結機関数) ○	民生委員による実態把握活動や配食サービス、民間企業2社と「高齢者等見守り活動に関する協定」を締結し、地域で活動する団体と連携することで地域での見守りを強化している。平成30年度には、各機関との連携を進めるため、意見交換の場等を開設する準備を行い、令和元年度に連携強化を進めるため各機関と情報共有を行った。令和4年度も継続して実施している。	目標	3機関	4機関	4機関	4機関	現時点では2機関のみの契約ではあるが、配食サービスや緊急通報装置など、見守り協定外の見守りもある。その一方で見守り協定を結ぶような機関がなく、協定機関の増加にはつながらない。	△	【課題】 協定締結する業者の不足 協定先からの連絡にすぐに対応し、命が助かったケースもあるが新規機関との協定締結には至っていない。
防災対策の推進 (緊急通報装置貸与者数) ○	避難行動要支援者台帳への登録について、平成30年度、令和元年度には民生委員による対象者への訪問を行った。緊急通報装置の貸与者数、避難行動要支援者台帳登録者数ともに現状維持となっている。民生委員や関係機関と連携し、防災や見守り活動に取り組んでいる。	目標	20人	20人	21人	21人	広報掲載、包括支援センターからの紹介などにより、新たな設置につながっている。	○	希望者への設置や設置した家を関係機関に共有し、防災対策としては進んでいる。設置トータル数は、設置者の入れ替わりもあったため、総数としては増加している。予算との兼ね合いも考えながらさらなる周知に務めたい。
成年後見制度の利用促進 ○△	利用促進にあたり、本町では地域福祉計画の中に成年後見制度利用促進計画を作成し、地域福祉計画に基づき取り組んでいる。	目標	地域連携ネットワークの中核機関の設置準備	地域連携ネットワークの中核機関の設置、運営	地域連携ネットワークの中核機関の設置、運営	地域連携ネットワークの中核機関の設置、運営	2022年 令和5年3月31日付で成年後見中核機関設立。役場健康推進課、民生児童課内である。	○	設置しただけにどまっているため、今後は内容の充実に努めたい。
認知症サポーターの養成 (参加者数) ○	参加者数・サポーター数ともに目標に達していない年もあり、周知が不十分となっている。今後は、小・中学校での講座やオンライン開催等も検討する必要がある。	目標	30人	30人	30人	30人	R4.11.8 町内の小学校でキッズサポーター養成講座を開催(31名) R4.12.21 町内の中学校で認知症サポーター養成講座を開催(88名)	○	今後も、小学校や中学校での認知症サポーター養成講座を開催し、サポーター数を増やしていきたい。
認知症地域支援推進員の配置 (認知症地域支援推進員活動) ○☆	認知症地域支援推進員は現在1人に対応しており、初期集中支援チームや総合相談との業務のため、他の業務が優先となっている状況。	目標	継続	継続	継続	継続	R4.7.29 今年度、初めて設置した認知症カフェにてご来場していただいた方へ「上板町認知症ケアパス」の周知と内容説明を実施。 R4.10.28 上板町地域包括支援センターと上板町が連携し、食生活の観点から「認知症の予防と進行抑制」と題した講演会を開催(45名参加) (徳島県栄養士会依頼)	○	認知症カフェを令和4年度で2カ所設置。どちらもコロナ禍であるものの、施設で開催していただけるようになった。今後は、認知症の方を支えるご家族の方への支援についても行っていきたい。
ケアプランの点検 ○	一部のケアプランについては、ヒアリングシート等の発出や、個別に提出を求め精査しているが、担当職員の変動など、知識担保がうまくできていないため、最低限の実施となっている。	目標	ヒアリングシート等の発出・講師派遣により技能強化	継続	継続	継続	(2021) R3年11月ヒアリングシート発出R3年12月ヒアリングシート回収済 (2022) 未実施	△	ケアプランの点検に当たっては職員の専門的な知識が求められる。異動等に際しては知識の担保を確実にを行い、毎年実施に努める。

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)		年度	2021	2022	2023	2021・2022年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
住宅改修・福祉用具事前審査○	制度利用のための理由書及びケアプランにより、必要性を確認している。福祉用具の貸与分については、適正化システム等により不適切なサービス利用がないかの確認を行っているが、給付費が年々増大しているため、より精査が必要。		目標	事前審査の強化。県の事業等を活用した専門職の視点を絡めた審査等の実施を予定。	継続	継続	適正化システム等を活用し、ヒアリングシートの発出に絡め不適切なサービス利用がないかの確認を実施した。	○	徳島県が行う点検支援員派遣事業を活用するなどして、専門職の意見を絡めた精査を行っていききたい。
			実績	適正化システム等を活用し不適切な利用がないかの確認を実施。	継続				
縦覧点検・医療情報との突合○	国民健康保険団体連合会からの縦覧点検情報等を基に確認している。不適切な部分については適正化システムを活用し、ケアマネジャーにも確認を行っている。		目標	情報を基に、適正化システム等も活用した確認を実施。	継続	継続	国民健康保険団体連合会からの縦覧点検情報等を基に内容確認を実施。不適切な部分については適正化システムを活用し、ケアマネジャーにも確認を行った。	○	引き続き適正化システム等を活用し不適切な利用がないかの確認を実施していききたい。
			実績	適正化システム等を活用し不適切な利用がないかの確認を実施。	継続				
給付費通知○	高額介護サービス費等の支給対象者に対して通知を行っているが、全介護サービス利用者に対しては第7期期間中には実施ができなかった。		目標	年1回	年1回	年1回	(2021) 作成方法をシステム担当業者と相談し、確認したが実施できず。 (2022) 作成方法の打合せは完了。2023年度からの実施を目指す。	×	給付費通知の抽出期間の範囲や書式等の詳細を決定し、早期実施に努める。
			実績	未実施	未実施				
老人クラブへの支援 (会員数)★	平成30年度、令和元年度には、未加入の各家庭を訪問し、老人クラブが地域でのつながりを持ち、日常的に支え合い・助け合いを行っている事を説明し、行事への「お試し参加」や夫婦そろっての勧誘を行った。しかし、定年延長により定年後も就労する方が多くなり、新規加入者が増えている。また、高齢化による退会など退会者が増加している。		目標	720人	730人	740人	①クラブ部会を新たに充足し、毎日の練習と大会を実施。新たな部会をきっかけに、競技者増となり老人クラブ入会のきっかけとなった。②小学校区毎にある集会所で健康運動や太極拳・百歳体操を行い、少しずつではあるが、老人クラブの活動が認知されてきた。③老人クラブへの新規加入者増のための方法などを協議し、全員で加入促進に向け意思高揚をはかった。また、加入する事による楽しみなど笑顔の写真を多く載せた広報を、町報に掲載し町内全戸に配布した。また、個別訪問し加入者増進をはかった。	○	加入者増に向け活動をしたが、目標達成できなかったが、実施内容としては満足できる結果となった。目標達成に至らなかった大きな原因はコロナ感染症拡大によるものと考えられる。2021年22年とも、コロナ感染症に伴い、大きな活動は中止となる。また、外出自粛期間の長期化により体調不良による大退会者が増加。今後は、家にいることに慣れてしまった高齢者を外出させる事を最優先とし、参加しやすくなる活動を企画。身近な人を誘い合う運動を展開していく。
		715人	実績	702人	654人				
交流機会の充実 (福祉センター講座参加者延人数)★	健康の保持・増進を推進し、介護予防を目的とした各種講座や音楽回想法等を年間96回実施し、利用者がいきいきと毎回笑顔で参加しながら交流を深めている。また、各老人集会所では年間81回、延人数で1,952人の参加者があり、気軽に地域ぐるみの交流ができています。		目標	520人	530人	540人	俳句講座 2021年168人 2022年135人 (毎月第2・4火曜日) 書道講座 2021年196人 2022年203人 (毎月第1・3火曜日) 短歌講座 2021年50人 2022年53人 (毎月第3火曜日) 陶芸教室 2021年126人 2022年176人 (毎月第1・3金曜日)	○	俳句講座 年間22回開催 (毎月第2・4火曜日) 書道講座 年間22回開催 (毎月第1・3火曜日) 短歌講座 年間11回開催 (毎月第3火曜日) 陶芸教室 年間22回開催 (毎月第1・3金曜日)
		518人	実績	540人	567人				
日常生活自立支援事業 (利用者数)★	認知症高齢者・知的障害者・精神障害者の内、判断能力が不十分な方が、自立した生活をおくれるように、個々の課題に応じた対応を心がけている。		目標	14人	14人	14人	2021年 定期的な活動として、訪問や電話をしたり又電話をいただき、困り事などの事業について解決策を見出し、理解頂けるよう説明をおこなった。2022年 2名が引越して町外転出となり支援終了。また、1名は支援不要な生活ができたのと、1名は他界され支援終了となる。定期的な訪問や電話での困り事について解決策を見出し、理解いただけるまで説明を行った。また、室内での簡易的修繕などは現地で修理等の対応及び業者依頼を実施。	○	この事業についての該当者は、まだまだ支援の必要は取り残されていると考える。町広報誌や聞き取りなどで周知を行い、支援による悩み解決等を実施できるよう努めていく必要がある。住み慣れた地域でいつでも楽しく暮らせる日々が送れるよう支援をつづけていく。
		13人	実績	14人	10人				
協議体の設置 (活動地区数)★	平成30年度に協議体(ささえあい上板)が19人で立ち上がり、協議体会議で1年間かけ、協議体の目指すテーマや具体的活動計画について4地区(小学校区)それぞれに決定し、4地区の老人集会所を拠点とし、令和元年度から1年間活動。現在も利用者は徐々に増加しており、活動の担い手候補も増えてきた。		目標	5地区	6地区	6地区	2021年 コロナ感染症により活動を自粛した。3密防止と人数制限のもと一部開催月4地区で開催。 2022年 コロナ感染症により自粛していたが、ひきこもり防止の観点から一部の月で開催。 東老人集会所 延160人 6ヶ月開催 西分老人集会所 延87人 11ヶ月開催 南老人集会所 延193人 11ヶ月開催 西老人集会所 延209人 12ヶ月開催 榎本集会所 延178人 11ヶ月開催 熊ノ庄集会所 延33名 2ヶ月開催	○	6地区設置し、目標達成となった。町内で均等的に設置できたことにより、通いやすくなった。目標達成に至ったが、引き続き地区を細分化していく課題も残っており、住民の意見も真摯に受け止め検討していく。また、参加者が楽しめる企画を計画していくことも今後の課題である。
		4地区	実績	5地区	6地区				

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)		年度	2021	2022	2023	2021・2022年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
介護予防把握事業 (アンケート調査による現状 把握数)★	平成30年度は、7～9月に計 11回の介護予防教室を開催 し、①栄養、②口腔衛生、 ③運動の講習を行い、3月中 旬に振り返り講習を開催しま した。令和元年度は、7～9月 に計11回の介護予防教室を 開催し、①栄養、②口腔衛 生、③ 運動の講習を行い、12月に 振り返り講習を開催。3月中 旬実施予定であった振り返り 講習は、新型コロナウイルス の感染拡大により、感染症対 策のため中止となった。 栄養では調理方法や野菜摂取 量を学習し、口腔衛生では口 腔体操や口腔ケアについて学 ぶことができ、実践も促して いる。また運動では、体力測 定をしながら、腰痛体操や膝 体操等でロコモティブシンド ロームの改善を促している。		目標	40件	50件	60件	両年共に、コロナ感染症増 加傾向により参加辞退者が 多くおり、アンケートによ る現状把握が難しかった。 町広報紙や社協事業の参加 者にも説明もおこないなが ら介護予防教室の受講者を つづけた。 人数制限をおこなった。	○	町広報紙掲載し事業案内を行う。 また、社協利用者にも説明や受講案 内を実施した。 過去参加者にも電話での案内をおこ なした。 新型コロナウイルス感染症が、5類 分類に移行したが、参加者が高齢の ため、人数制限を実施する。
		34件	実績	30件	30人				
介護予防普及啓発事業 (介護予防教室延参加人数)★	教室の内容が現状に合っており、参加者も介護予防に前向 きた。講義についても熱心に 理解しようとしていた。また 参加者間の親睦も深まって いるようだったが、令和2年 度は新型コロナウイルス感染 症の影響により、多くの方が 参加辞退となり。また参加 者にも届きにくい。		目標	30人	33人	36人	2021年計13回実施 延226 人 栄養指導 12回 口腔機能指導 3回 運動指導 9回 2022年 7月4日 8月5日 9月4日 計13回実施 延150人 栄養指導・口腔機能指導・ 運動指導3種を実施 受講者人数制限実施	○	受講者が高齢のため、新型コロナウ イルス感染症が5類分類に移行し たが、人数制限を実施する。 今後は、広報などで受講者増を目標 に取り組んでいく。
		24人	実績	15人	12人				
地域介護予防活動支援事業 (地域別開催数)★	生活支援体制整備事業による 協議体と連携しながら、4地 区(小学校区)の老人集会所 で介護予防や体力増進を目的 に百歳体操や認知症防止体 操・運動機能回復等を実施し ている。		目標	96回	100回	104回	2021年 百歳体操や囲碁・将棋・輪 投げ・レクリエーション・茶 話会など実施。また、講 師を招いての手芸教室など 工夫を凝らした参加しやすい 場所とした。 2022年 東老人集会所6回開催 西 分老人集会所12回開催 南 老人集会所22回開催 西老 人集会所12回開催 椎本集 会所22回開催 熊ノ庄集 会所2回開催 コロナ感 染症拡大により一部集会所 閉鎖	○	コロナ禍でも、ひきこもり防止を優 先させ体力増進をおこなった。今後 は、コロナ以前のように積極的な活 動するため、より一層魅力的な企画 を各集会所で独自に開催していく。 一時期コロナの影響により不参加 者が増えた。その期間に「行くのが面 倒になった」という声を聞いた。 一度遠のいた足を元に戻すことは難 しいが、粘り強く再度参加を促して いく。
		34回	実績	48回	76回				
一般介護予防事業評価事業 (評価事業参加者数)★	介護予防教室において、3か 月間運動等の講習を実施し改 善を行い、個々に評価してい る。介護予防が必要な方への 参加を促すため、広報やロコ ミなど、広く周知する必要が ある。		目標	30人	33人	36人	2021年 7月・8月・9月に管理栄養 士による栄養指導、歯科衛 生士による口腔機能指導・ 理学療法士による運動指導 を実施し、評価を12・3月 に実施。 2022年 7月・8月・9月に管理栄養 士による栄養指導13回。歯 科衛生士による口腔機能指 導3回・理学療法士による 運動指導13回を実施し、評 価を12・3月に評価および 個人別改善指導を実施。 参加人数の目標は、両年と もコロナ感染症対策として 人数制限を行った為少人数 とした。	○	感染予防として、人数制限を行っ たため、目標人数には達しなかつた。 コロナ感染症が感染症法上5類に移 行したが、参加者も高齢のため引 続き人数制限を実施する。 また、課題として募集案内を見て いない方もいるため、広報の周知方 法を検討する必要がある。
		24人	実績	15人	12人				
権利擁護事業 (虐待発見)☆	町と連携し、虐待予防・早期 発見に努めています。現実 として虐待の捉え方が難しく 、発見しにくい面がある。		目標	3件	3件	3件	2021年 金銭搾取問題を解決するこ とができ、施設入所につな ぐことができた。 2022年 虐待案件の発見や情報提 供、及び相談がなかった。	△	虐待予防・早期発見に町と連携して 実施しているが、捉え方が難しい。 また、第三者に知られたくないため 発見が送れる事も考えられる。 些細な情報も見逃さないよう引き続 き務めていく。
		相談2件 発見0件	実績	1人	0人				
認知症初期集中支援チーム (対象者数)☆	現在2チーム体制で実施して いるが、看護師が1人で医療 職・福祉職を共働するため、 医療職への負担が大きくなっ ている。また総合相談として 認知症について相談を受ける ことも多く、相談を受けた担 当者が1人で対応しがちにな り、チームへつながらることが 少なくなっている。		目標	3人	3人	3人	2021年 認知症疑いに関して家族か ら相談があり対応。サポー ト医と連携して医療に繋げ た。 2022年 昨年度相談を受けた事案に 対し、医療に繋ぎ、介護認 定取得しグループホーム入 所となり支援終了。 社協事業での集まり(デイ サービス)や、小学校区 の老人集会所で毎月実施し ている「ささえあいの場」集 会に参加し、認知症につ いての説明会を8回実施。ま た、講師を招き「認知症と 栄養について」の講演会を 実施し、43名が参加した。	△	チームで迅速に対応し、医療につな ぐ事ができた事で、自信に繋がっ た。 今後も少しの変化も見逃さず対応し ていく。
		1人	実績	1人	0人				

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)		年度	2021	2022	2023	2021・2022年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
認知症初期集中支援チーム (相談件数) ☆	現在2チーム体制で実施していますが、看護師が1人で医療職・福祉職を共働するため、医療職への負担が大きくなっています。また総合相談として認知症について相談を受けることも多く、相談を受けた担当者が1人で対応しがちになり、チームへつながることが少なくなっている。		目標	10件	10件	10件	2021年 認知症疑いに関して家族から相談があり対応。サポート医と連携して医療に繋がった。 2022年 昨年度相談を受けた事案に対し、医療に繋ぎ、介護認定取得しグループホーム入所となり支援終了。 社協事業での集まり（デイサービス）や、小学校区の老人集会所で毎月実施している「ささえあいの場」集会に参加し、認知症についての説明会を8回実施。また、講師を招き「認知症と栄養について」の講演会を実施し、コロナ禍のなかではありましたが、43名の町民が参加した。	△	今後も事案があれば迅速に対応していく。相談内容によっては条件（基準）に合わない事があるが、些細な事から相談できるという土壌づくりが大切であり、町民に周知していくことを優先的に推進したい。
防災対策の推進 (避難行動要支援者登録台帳 者数) △	避難行動要支援者台帳は、例年民生委員による整備と新規登録の推進を行っている。個別避難計画の作成については、地域支援者の確保が難しく、作成に至っていないものが多い。今後も民生委員や支部長、関係機関と連携し、発災時に有効な台帳及び計画作成の方法を検討するとともに、地域の防災意識の向上に努めていく。		目標	195人	200人	200人	災害対策基本法の改正により、避難行動要支援者に対する個別避難計画の作成が努力義務化され、本町においても既に作成に取り組んでいる。2022年度は、重度の寝たきり状態である2名の難病患者について、県・保健所・医療専門職・民生委員・消防組合や庁内各課と連携し、作成のための会議等を行った。他の台帳登録者に対する協力依頼も、民生委員や医療専門職に対し、会での説明等を通じ行った。	○	“地域支援者の確保が難しい”ことが作成の妨げとなっている案件が多いため、地域にいる要支援者の個別避難計画の作成に地域で取り組んでいただけるよう、今後自主防災組織に対しても協力をお願いする予定としている。その中で、地域の防災意識の向上と地域力強化のためのサポートに努めたい。
防犯対策の推進 (防災士会会員数) ▲	町と支部及び自主防災組織が連携し、安全・安心なまちづくりを推進している。防災士の養成も推進しており、防災士の会員の半数以上は高齢者となっていることから、地域活動への参加の機会も増え、介護予防にもつながっている。		目標	22人	24人	26人	(2021年) 協議会を5回開催し、活動内容についての意見交換等を実施した。 自治会の防災研修に3度参加し、ロープワーク等について指導を行った。 (2022年) 総会を1回開催し、協議会を5回開催し、今後の方針や活動内容についての意見交換を実施した。 自治会の防災研修に2度参加し、地域でできる災害対策や今後起こりうる災害についての講習を行った。 防災フェスタ・吉野川視察研修・避難所での備蓄品の確認等イベント・研修を行った。	○	2022年度に数年できていなかった防災フェスタを開催することができた。今後もイベント等開催していきたい。また、地域の防災啓発活動を推進し、避難所運営訓練等の防災訓練にも取り組んでいきたい。
		1件	実績	1件	0人				
		157人	実績	155人	140人				
		21人	実績	23人	27人				